

経口糖尿病薬

血糖値を下げる薬は、使い方で分けると飲み薬と注射薬の2種類です。飲み薬の働きは、大きく3つに分けることができます。

特徴		分類	薬品名 (ジェネリック品)	主な作用	血糖降下作用	低血糖リスク	体重への影響
インスリンの分泌を増やす	血糖非依存性	スルホニル尿素薬(SU薬)	アマリール (グリメピリド) オイグルコン (グリベンクラミド) グリミクロン (グリクラジド)	インスリン分泌の促進	高	高	増
		速効型インスリン分泌促進薬 (グリニド薬)	グルファスト (ミチグリニド) シュアポスト (レパグリニド) スターシス ファスティック (ナテグリニド)	より速やかなインスリン分泌促進 食後高血糖の改善	食後高血糖改善	中	増
	血糖依存性	DPP-4阻害薬	グラクティブ ジャヌビア エクア オングリザ ザファテック 週1回服用 スイニー テネリア トラゼンタ ネシーナ マリゼブ 週1回服用	インクレチン(GLP-1・GIP)の分解抑制による 血糖依存性のインスリン分泌促進とグルカゴン分泌抑制	中	低	不変
		GLP-1受容体作動薬	リベルサス	GLP-1の作用増強による 血糖依存性のインスリン分泌促進とグルカゴン分泌抑制	高	低	減
		イメグリミン	ツイミーグ	ミトコンドリアへの作用を介した 血糖依存性のインスリン分泌促進とインスリン抵抗性改善	中	低	不変
	インスリンの作用をよくする		ビグアナイド薬	メトグルコ (メトホルミン)	肝臓での糖新生抑制	高	低
チアゾリジン薬			アクトス (ピオグリタゾン)	骨格筋・肝臓でのインスリン抵抗性改善	中	低	増
糖の吸収と排泄を調整する		α-グルコシダーゼ阻害薬 (α-GI)	セイブル (ミグリトール) バイスン (ボグリボース)	腸管での炭水化物の吸収分解遅延による食後血糖上昇の抑制	食後高血糖改善	低	不変
		SGLT2阻害薬	カナグル ジャディアンス スーグラ デベルザ フォシーガ ルセフィ	腎臓でのブドウ糖再吸収阻害による尿中ブドウ糖排泄促進	中	低	減

多くの種類がある糖尿病の薬の中で、症状に合わせて適切な薬が処方されています。より効果を高めるために、数種類の薬を組み合わせることもあります。

下記のように、2種類の異なる作用を持つ薬を混合してひとつにした**配合薬**もあります。メリットとして、飲む薬の数が減ることで飲み忘れなどが減ることが期待されます。

分類	配合薬名	薬品名(ジェネリック品)
スルホニル尿素薬(SU薬) + チアゾリン薬	ソニアス配合錠	アマリール(グリメピリド) + アクトス(ピオグリタゾン)
DPP-4阻害薬 + チアゾリン薬	リオベル配合錠	ネシーナ + アクトス(ピオグリタゾン)
ビグアナイド薬 + チアゾリン薬	メタクト配合錠	メトグルコ(メトホルミン) + アクトス(ピオグリタゾン)
ビグアナイド薬 + DPP-4阻害薬	イニシンク配合錠	メトグルコ(メトホルミン) + ネシーナ
	エクメット配合錠	メトグルコ(メトホルミン) + エクア
	メトアナ配合錠	メトグルコ(メトホルミン) + スイニー
SGLT2阻害薬 + DPP-4阻害薬	カナリア配合錠	カナグル + テネリア
	スージャヌ配合錠	スーグラ + ジャヌビア または グラクティブ
	トラディアンス配合錠	ジャディアンス + トラゼンタ
速効型インスリン分泌促進薬(グリニド薬) + α -グルコシダーゼ阻害薬(α -GI)	グルバス配合錠	グルファスト(ミチグリニド) + ベイスン(ボグリボース)

薬の作用によって服用方法が異なります。例えば

- ・ α -グルコシダーゼ阻害薬・グリニド薬は食直前に飲むこと事によって食後の血糖値の上昇を抑えます。
- ・GLP-1受容体作動薬(リバルサ)は1日の最初の飲食の前に内服し、30分は飲食不可です。

糖尿病薬は服用方法を間違えると低血糖や副作用をおこす危険性が高くなります。

薬の効果をより高めるために、正しい内服用法・用量を身につけましょう。